

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	生活環境部環境課	直通電話	72-3240	事業コード	106020101	課内	10	作成日	平成15年9月1日
		担当者	内村裕之	担当課長	有田英之	担当部長	吉田保雄		

1 事業のアウトライン

1) 事業名	自然環境調査事業	開始年度	H13	終了年度	H17								
		最近の事業内容見直し年度											
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">施策コード</th> <th style="width: 90%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>1060201</td> <td>自然環境の保全・活用 / 調査・啓発活動の推進</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	1060201	自然環境の保全・活用 / 調査・啓発活動の推進				
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目												
1060201	自然環境の保全・活用 / 調査・啓発活動の推進												
3) 個別計画での位置付け	「石狩市環境基本計画」												

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	花川南防風林等の自然地域の植生をデータベース化し、優れた自然を開発や工事などから守るとともに、地域の特性に応じて保全する。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	各地区ごとの植生を調査し、稀少植物などの植生を確認する。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	市内に分布する防風林(花川南防風林・同北防風林・生振防風林・石狩川河畔・遮断緑地ほか)において幹周3m以上の巨木調査や稀少植物及び防風林の自然度の指標となる植物の分布状況等を調べ、マッピングする。 1. 巨樹・巨木調査事業 2. 植生調査事業 3. 身近な自然調査事業
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	特になし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	各種開発や工事に伴う自然破壊を防止し、現存する自然地域や生活環境を保全するため、環境アセスメントの実施や自然と触れあう機運の高まりが見られてきている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	特になし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14事業費の主な内訳	金額(千円)	
1) 直接事業費(千円)		267	124	446	自然環境調査経費(作業員賃金、消耗品費)	124	
2) その他の間接経費(千円)							
3) 従事正職員の人件費(千円)		1,493	1,483				
総事業費(1~3の合計;千円)		1,760	1,607			H14主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)		1,345	1,607				
市民一人当たり一般財源使用額(円)		24	29				
事務に従事した正職員のべ人数		0.18人	0.18人				

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
調査の地区数(地区)	目標値		7	4	目標値は、調査年次計画により設定。 市内の主な自然地域(花川、樽川、生振地区の防風林と花畔、緑苑台、五の沢の自然林)
	実績値		7	4	
	達成率		100.0%	100.0%	
調査面積(ha)	目標値		60	55	目標値は、調査年次計画により設定。
	実績値		60	55	
	達成率		100.0%	100.0%	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

5 事業の成果

事業名：自然環境調査事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
調査の進捗率(%)	目標値		20	40	60	H13～17までの年次計画に基づき調査を実施する。また、調査終了後そのデータについては自然地域保全のため、広く利活用してもらう。	担当者に よる現地 立会・調査 報告書に よる
	実績値		20	40	目標レベル		
	達成率		100.0%	100.0%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、 事業改善等の効果はど うだったか	調査体制、調査時期、期間等を考慮し、当初計画どおりの事業が実施できたので概ね良好。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の 達成に効果があるか、ま た、市民(対象者)に必要 とされているか	開発等から自然を守るための保全対策の立案、市民等の自然とのふれあいの場の提供・確保等にあって、地域の自然環境を把握することは有効かつ必要である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与す る必要があるか、市がど こまで関与するのが適当 か	市民の貴重な財産である自然環境を、目的に応じて保護し、あるいは利・活用していくためにも、市が主体となり各管理者、市民等の協力を得て調査、把握することは一定の妥当性がある。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるた めには今の事業内容が 適当か、受益と負担の関 係に不公平はないか	開発等から自然を守り、また、市民が自然と触れあうなど、自然に関する市民ニーズに応えるためには、市民からの情報提供を含め、市が現況を把握することは一定の妥当性がある。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	B	[最終評価]	B (前年度)
	市内の自然地域を、5年程で調査する事業の2年目であり、着実にデータが集積されている。		自然地域の姿をデータベース化することは、市民の貴重な財産を保護・活用する上からも重要であり、その取りまとめが着実に進められた。	

8 今後の方向性・課題

担当課長 評価	蓄積された調査結果を自然保護施策の策定、市民への情報提供等、有効活用する。
最終評価	環境の保全と創造に取り組んでいくためには、環境の現況、環境への負荷の状況など、情報の共有が必要です。調査・監視体制を充実し、必要な情報を収集し、把握すると共に、今後とも環境白書などにより情報を提供、公表してまいります。

9 平成16年度の方向性

事業 規模	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
拡大方向		*	
現状維持			
縮小方向			
統 合			
休・廃止			
上につ いての 説明	* 自然環境調査の委託化による予算額の増。		